

レファレンス コーナー

二一世紀における 人口問題

菅原房子

二一世紀の人口については各種の予測がなされているが、二〇五〇年には世界の人口が九〇億人に近づくことは確実である。人口問題はこれまで貧困、食糧、環境問題など、人口が増加することによって起こる諸問題を扱うことが主流であった。しかし、近年はジェンダー、少子化など新たな視点を含めての多角的議論が増えている。

国連経済社会情報・政策分析局人口部編／阿藤誠監訳『国際連合世界人口予測一九五〇―二〇五〇』（原書房 一九九六年）、世界銀行／河野稠果監訳『世界人口長期推計、一九九〇―二一五〇年』（東洋書林 一九九六年）などではないずれも一〇億人に近い数値を予測していた。

ところが、二〇〇三年二月に発表された国連の「世界人口予測」ではエイズによる死者が予想以上に増えているとして、途上国でも少子化現象が現れ、二〇五〇年の人口予測を

八九億人と下方修正した。しかし、これまでの人口問題を論ずる多くの文献は、人類が一〇億人になることを想定して、そのことによって発生する新たな問題や、現存する問題の深刻化について解説している。河野稠果『世界の人口・第三版』（東京大学出版会 二〇〇〇年）と河野稠果・大淵寛編『人口と文明のゆくえ』（大明堂 二〇〇一年）は、出生率の低下や高齢化による人口構造の変化など、さまざまな人口問題の

新展開や貧困、環境、都市化、食糧などの人口に関わる諸問題を包括的に解説して、現代文明のゆくえについて論じている。国連からは、『世界人口白書』が毎年出版され、邦訳版も国連人口基金（UNFPA）から出版されている。二〇〇一年版では、「人類の足跡と未来への道標、人口と環境の変化」が統一テーマとなっており、人間活動が地球環境に及ぼす影響に警鐘を鳴らし、人権やジェンダーについても言及している。

国立社会保障・人口問題研究所編『第六回厚生政策セミナー報告書―地球人口二〇億の世紀』（国立社会保障・人口問題研究所 二〇〇二年）では、「南の国々における人口増加による問題の深刻化と少子高齢化が進む北の先進国との南北の人口動向における鮮明なコントラスト」があるとして、国際人口移動などによる南北間の政策の合意を前提とした人口問題の解決策を提言しており、二一世紀の人口問題について

の興味ある議論が紹介されている。

人口増と少子高齢化を同時に解決するひとつの方法としての国際人口移動については、早瀬保子編『アジア太平洋経済協力会議国際ワークショップ報告書―アジア太平洋地域における国際人口移動』（日本貿易振興会アジア経済研究所 二〇〇一年）で、アジア太平洋諸国の人口移動と移動政策が国別に紹介されている。また当該地域の人口移動状況とラテンアメリカ地域などにおける移動パターンとの比較分析が興味深い。

『人口・経済・社会保障モデルによる長期展望―人的資本に基づくアプローチ』（日本大学人口研究所 二〇〇二年）では「TFR（合計特殊出生率―一人の女性が生涯に産む子供の数）が一・五八人を下回り、いわゆる一・五七ショックを契機にわが国の少子高齢化に対応する社会経済構造の变革を検討する」必要があるとして、日本の人口構造とメカニズムを分析したうえで、人口と経済発展、人口構造の変化と人口減少によって想定される社会保障や医療制度、老人介護などのあり方について詳細な報告がなされている。その後、日本のTFRは一・三三人（平成一三年度）まで低下している。

また、杉野元亮『人口システムと経済発展分析』（創成社 二〇〇〇年）は、人口と経済発展についての相関関係についてモデル分析を行い、経済発展のための適度人口、出生力低下が経済発展に及ぼす影響度など

について論じている。

アジア地域における人口問題では、一九九〇年代には中国およびインドを対象とした人口抑制政策の評価を中心に多くの文献が出版された。二〇〇〇年以降では、人口問題を単独に扱うというより、持続的成長論や環境問題のなかで論じられているのが目立つ。

石南國・早瀬保子編『アジアの人口問題―二一世紀への展望と戦略―シリーズ・人口学研究一〇』（大明堂 二〇〇〇年）ではアジア地域を対象に、人口問題の所在と特徴を都市化、労働移動、経済発展、女性の地位などの観点から分析、解説している。

早瀬保子編著『途上国の人口移動とジェンダー』（明石書店 二〇〇二年）、阿藤誠・早瀬保子編『ジェンダーと人口問題』（大明堂 二〇〇二年）は、途上国における人口問題をジェンダー的視点から幅広い課題を分析して、新しい人口問題研究を確立しつつある。

また（財）アジア人口開発協会（APDA）による一連の実態調査報告や「人口と開発シリーズ」等はアジアの人口問題に対する考え方や政策を知るうえで有効な資料である。また国立社会保障・人口問題研究所では各種の人口問題に関する報告書や会議の動向、文献などを多数紹介している。

（すがわら ふさこ）／図書館書誌参考課長